



12月  
の御書  
度

てはならない。  
も、法華経にきずをつけ  
どんなにつらい目にあつて  
明日のことも分からぬ  
明日の出来事は夢の上のような  
も、法華経にきずをつけ

意味

# 「四条金吾殿御返事」

（不可惜所領の事）

（御書新版→583ページ・御書全集→63ページ）

一生はゆめの上、明日を  
なるとも、法華経にきずを  
つけ給うべからず。

御文

あきらめない心から希望は生まれる

みんな、こんにちは！ ボクはライオン博士のキングくん。

今回は、四条金吾に送られた御書を学ぶよ。四条金吾は、日蓮大聖人の弟子の中でもひときわ信心が強くて、たのもしいリーダーだったんだ。

「大聖人のためなら何があっても負けない！」。そんな強い心、「負けじ魂」をもっていたんだ。まるで「Be Brave！ 贠けない心を燃やして♪」と歌っているボクたちみたいだね！

ところがある日、法華経の信心を否定する人たちが、金吾をわなにかけて悪者にしようとした。「金吾は悪いことをした」と、ウソのうわさを流したんだ。

そのうわさを、主君（仕事上のえらい人）は信じてしまった。そして金吾に「信心をやめないなら出ていけ！」と言ったんだ。仕事をなくし、家も出でいかなければならないなんて……。金吾も家族も、とても不安だっただろ。

だけど、四条金吾は「それでも絶対に信心をやめない！」と誓ったんだ。大聖人は、金吾の負けない心をとつても喜ばれたんだよ。

明日、何が起きるかなんて、だれにも分からない。で

も、どんなに大変なことがあっても、ボクたちには南無妙法蓮華経のお題目がある。お題目を唱えれば、「心」という宝物をかがやかせることができる。それは、お金のように、使ったら消えてしまうものではなく、永遠にくずれることはない。お題目を唱えている人は、強く美しい心で、必ず幸せになれるんだ。

大聖人は金吾に「どんな時も、法華経にきずをつけではない」と言っているよ。「法華経にきずをつける」って、どういうことかな？

それは自分の弱い心に負けてしまうこと、苦しい環境を前に心を閉ざしてしまうことだよ。反対に「負けない心」を燃やし続けることが「法華経を大切にする」ことだよ。信心をつらぬいた金吾は、その後、主君から信らいを取りもどし、以前よりも「金吾はすごい人だ」と、たよりにされるようになったんだ！

池田先生は「希望は『あきらめない心』から生まれる」と語られたよ。無敵のお題目で「負けない心」を引き出そう！ そしてボクたちの勝利の姿で、信心のすごさを証明してみせようよ！